

ひょうごの福祉

認め合い ともにつながり 支え合う みんなでつくる ひょうごの福祉

10

No.740

特集……P2

ストップ・ザ・無縁社会

絆つなげる 明日へつながる④

第51回

社会福祉夏季大学の
内容から

「ストップ・ザ・無縁社会」広がれ!全県キャンペーン……P6

みんなでつくるひょうごの福祉……P7

認知症になっても住み慣れた地域で暮らし続けるために
～「グリーンハイツ地区成年後見センター」の取り組みから～

あなたのまちの社協ナビ……P8

南あわじ市社協

みんなで考え みんなでつくる 笑顔のまち

～行政施策との連携で進める地域づくりの展開～

地域を駆ける!ワーカー物語……P9

安心して暮らせる地域をつくる!

上郡町社会福祉協議会 竹内 盛一郎さん

県社協ニュース……P10

みんなの広場……P11



10月から、
共同募金運動が
スタートします!



ストップ・ザ・無縁社会 絆つなげる 明日へつながる④ 第51回社会福祉 夏季大学の内容から



本会では、「ストップ・ザ・無縁社会」全県キャンペーンの一環として、これからの新たな支え合い社会を実現していくための方策を県民とともに考える機会とするため、第51回社会福祉夏季大学を開催した。
今月の特集では、多彩な講師陣により「無縁社会」に関する議論が展開された、社会福祉夏季大学の概要をお伝えする。

年には3対1の比率で「騎馬戦」型だったのが、だんだん1対1の「肩車」の形に近づいています。さらに、非正規雇用で結婚できない人たちが年を取っていくことで、2030年には特に大都市を中心に高齢世代の単独世帯が増えることになりま

れからは民生委員や社協が個別に一人一人の高齢者を支えるのは困難で、「新しい家族」とでもいうべきものをつくっていくしかありません。具体的には、高齢者と障害を持った子どもたちが一緒に暮らす「このゆびとーまれ」(富山市)や生活保護受給者が母子世帯の子どもたちに勉強を教える「ミニユニティハウス冬月荘」(釧路市)のような共生型福祉の取り組みなどを通じて、新しい結びつきをつくり出していくことが、無縁社会化を伴った少子高齢社会に対する重要な処方箋となります。

業手当などの給付の問題ではなく、働き続けて社会とつながり認められる関係にあることが、非常に重要になっているのです。



当日は400人を超える参加者が聴講

「無縁社会」はなぜ出現したか
戦後の日本社会は社会保障にあまりお金を使っていかなかったにもかかわらず、それなりに安定した社会をつくってきました。そこでの縁には、血縁、地縁、社縁(会社の縁)がありますが、戦後日本社会は、政府が公共事業で仕事をつくって業界を支え、雇用を守られた男性稼ぎ主が妻



を脱却していく大事な一歩になる
と思えます。

■表1 これからの新しい縁のかたち

- 「必要縁」**
子育て、介護、引きこもり、失業などの解決のために、地域、家族、企業、NPOが連携していくことで生まれる縁
- 「はざまの縁」**
制度と制度をつなぎながら、制度的に対応されてこなかったニーズに対応していく縁(大阪府社会福祉協議会の社会貢献事業など)
- 「共生縁」**
皆が弱者の時代に、助ける人と助けられる人という縁ではなく、支え合う縁

鼎談「コミュニティをどう再生するか」新たなつながりづくりに向けて

大熊 私は福祉と医療、現場と政策をつなぐ「えにしネット」(<http://www.yuki-enishi.com/>)という活動を通して縁結びをしています。深くて広い河で隔てられてい

る福祉の支援者とご本人、政治家、行政官、メディアの人たちを、つなげていくと始めました。今日は、あとかい「コミュニティをつくるために話し合っていたら」と思っています。



国際医療福祉大学
大学院教授
大熊 由紀子さん

「縁」の希薄化を招いた
社会の変化

橋本 高度成長長期以降の日本の社会経済の変遷により、血縁、地縁、社縁が希薄化してきました。「血縁」について象徴的なのは、祖父母と成人した子どもと孫が一緒に住む「三世同居」の激減です。1975年には高齢者の半分以上が三世同居に住んでいましたが、今では18%と非常に低くなっています。昔は親が貧乏でも子どもが経済的に支援を行い、祖父母が病気になるなら家族が支援をしていましたが、地域間の労働移動が進み、年金制度が充実してきたことにより、三世同居が激減しています。

「地縁」の希薄化も経済発展の結果です。昔は地方で農業や商業を先代々営んでいたため、隣の人のことは誰も知っていたのですが、若い人が都会に出てきて、見知らぬ人が隣り近所に住むようになりました。そのため、都会に住む人たちの地域の結びつきが非常に希薄になってきたのです。

「社縁」についても、昔は企業が従業員に住宅などのいろんな福祉を提供し、終身雇用や年功序列などの制度が日本の企業制度の重要な柱だったのですが、経済が低成長になると企業もそれが維持できなくなり、労働者は自分の企業に親しみを感じなくなり、また、非正規労働者が増えた結果、労働者同士の結びつきも弱くなってしまいました。

日本は統計を見れば、社会保障給付費の対GDP比率が、アメリカと並んで最低水準で、低福祉・低負担の国と言えます。「無縁社会」に入った今の日本社会においては、国民が安心して暮らせるようになるために、アメリカ流の自立型社会を選ぶのが、ヨーロッパ流の福祉国家を選ぶのかという選択を行う時期にきています。

高齢者の社会参加を促す
公共的空間

辻 東日本大震災のある被災地では、仮設住宅の玄関を向き合わせてバリアフリーにして、買い物のできる商店やケアのあるサポートセンターも置きました。従来型の仮設住宅では弱った高齢者は住み続けられず、孤独死も起こります。それを全部街として受けとめるという設計思想です。これにより高齢者も外出ができ、お互いの様子がわかり、自然に人と人が触れ合うようになります。

千葉県柏市では、高齢者の社会参加のために「コミュニティビジネス」に取り組みしており、農業やレストラン、塾などでチームを組んだお年寄りがワークショップアライングのかたちで働いています。それにより外出の回数が増え、いろんなつながりができています。このよう



同志社大学
経済学部教授
橋本 俊昭さん

な公共的空間を戦略的に創出するとともに、民間による恒久的なシステム化を目指すことで、薄れていく人と人とのつながりを新たにつくり出しています。



東京大学高齢社会
総合研究機構特任教授
辻 哲夫さん

全国で展開される新たな縁結び

大熊 日本では、いろんなかたちの縁結びが行われています(表2参照)。いいことをしていればいつか世の中が分かってくるといって日本人の美意識があります。分かってはもらえませんが、民生委員や社協の皆さんの活動も、世の中に活動はどう発信していくかを考えてみてはいかがでしょう。

橋本 すべての国民にこのようなサービスが行き渡るために、福祉の充実にはお金がかかることを認識しなければなりません。社会保障給付費の国民所得に占める比率

がヨーロッパは非常に高いのですが、福祉に見返りがあるなら負担をするというコンセンサスがあります。しかし日本では福祉を充実すると経済が弱くなるという反対運動がある。これに対して国民がどう選択するのが問題です。
辻 事例で挙げられた地域のようなく、困った人を困っていない人が助けるというのではなく、共に暮らす中で支える人も人間の尊厳に感動するということ喜びをもらっているのです。そういうことを理解した市民が地域に多くいることが大切で、そのような地域では「孤独なお年寄りはどうしているんだろう」と気にかけるようになります。

福祉にお金の流れを

大熊 デュシェンヌ型筋ジストロフィーという、呼吸が困難になり、人工呼吸器が必要で一生療養所から出られなくなると言われていた病気がありますが、デンマークでは、電動車いすで外出し、自分の家に住み、結婚までしています。家族が疲れ果てるということもなく、愛情も枯れない。福祉や医学の学



新たな「縁結び」はいかにして可能か(鼎談の様子)

インターネットなどで調べてみましょう!

■表2 全国における「縁づくり」の取組事例(講演で言及されたもの)

このゆびと一まれ	富山県富山市 http://www.geocities.jp/kono_yubi/	穂波の郷クリニック	宮城県大崎市 http://www.kokoronosato.net/
コミュニティハウス冬月荘	北海道釧路市 http://n-salon.org/tougetuso/	ケアタウン小平	東京都小平市 http://caretownkodaira.net/npo/
共生型地域オープンサロン	北海道当別町 http://yuyu24.com/facility02.html	社会福祉法人南高愛隣会 コロニー雲仙	長崎県雲仙市 http://www.airinkai.or.jp/
えにしネット (大熊 由紀子さんのホームページ)	http://www.yuki-enishi.com/	社会福祉法人むそう	愛知県半田市 http://www.musou03.org/
平田運動公園仮設住宅	岩手県釜石市	浦河べてるの家 「幻覚&妄想大会」	北海道浦河市 http://urakawa-bethel.or.jp/
豊四季台地域高齢社会 総合研究会	千葉県柏市 http://kashiwa-toyoshikidai.org/	健康と病いの語り ディベックス・ジャパン	http://www.dipex-j.org/
やねだん	鹿児島県鹿屋市 http://www.yanedan.com/	患者・家族と医療をつなぐ NPO法人 架け橋	http://www.kakehashi-npo.com/

グリーンハイツ地区成年後見センターは、地域住民が主体となって設立されたNPO法人なんだ。認知症になっても地域で暮らし続けることを実現するために、住民にとって身近な相談窓口として、成年後見制度に関するさまざまな支援を行っているよ。



みんなでつくる ひょうごの福祉

地域で支え合い、地域を元気にする取り組みを紹介します。

地域の課題を 解決するために

「認知症になっても住み慣れた地域で暮らし続けたい」。グリーンハイツ地区成年後見センターは、このような地域住民の願いを叶えるために立ち上げられた。高齢化率の高さや一人暮らし高齢者の増加といった地域課題に目を向けたグリーンハイツ・清和台・大和・明峰の4地区の福祉委員会が中心となって、地域の中で何ができるかを勉強会などで話し合った結果、平成23年11月に設立された地域住民主体の組織だ。

住民同士で支え合う 新たな仕組み

センターは、平成22～23年度に県が実施した市民後見人養成研修の受講者など、成年後見制度に関する知識を有した会員を中心に構成されており、成年後見制度に関連した「相談事業」と「啓発事業」を展開している。専門職ではない住民自身が制度を学び、住民のための相談・啓発に取り組んでいるところが、こ

認知症になっても住み慣れた地域で暮らし続けるために

～「グリーンハイツ地区成年後見センター」の取り組みから～



地域へ出向き「成年後見制度」をアピール

の付添いなど、制度の活用に向けた支援を行っている。身近な地域に相談窓口を設置しているという特徴を生かし、相談者の自宅へ積極的に出向き、専門機関への相談を迷うときなどにも、気軽に相談できるような環境づくりに努めている。

また、認知症になっても暮らし続けられる地域づくりのためには、住民自身も制度の理解を深めることが必要との考えから、講演会や地域に出向く出前講座を積極的に開催している。

身近で頼れる 相談窓口を目指して

現在窓口はグリーンハイツ地区のみに設置されているが、理事長の岡やすえ氏は、「より身近な窓口となれ

取材を終えて

成年後見制度を支える担い手として、これからは福祉や司法の専門職だけではなく地域住民の力も欠かせません。その中で、行政や専門職ではない、住民自らが主体となって取り組むことの意義は大きいと思います。ますます認知症が増えると言われる中で、住民主体の新たな支え合いの取り組みとして今後の展開に注目です。

特定非営利活動法人グリーンハイツ地区成年後見センター
(川西市緑台6-1-85)
☎072-767-7860 FAX072-744-1136

TOPICS

キャンペーン事業が続々開催!

8月10日に開催された「ストップ・ザ・無縁社会」全県キャンペーン推進協議会設立総会では、記念講演会も併せて開催されました。概要は下記の「ささえあいメッセージ」をご覧ください。また、8月23日に開催された第51回社会福祉夏季大学も、400人を超えるご参加をいただきました(2～5ページの特集参照)。なお、各行事のアンケートでは、参加者の皆様よりキャンペーンに対するメッセージを多数お寄せいただいています。ホームページ(<http://stop-muen.jp>)で随時ご紹介していますので、ぜひご覧ください!

皆様からいただいたメッセージ(一部)

- キャンペーンが考えるきっかけとなり、今後よりよい社会となるよう願います。
- 隣近所とのお付き合いを大切にと言いますが、一番難しい問題です。

ささえあいメッセージ

無縁社会を生きる～いのちの大切さ～

無縁社会にストップをかけるために、どう私たちは生きていくべきか、3つのテーマでお話しします。

まずは「いじめ」の問題です。小説「蠅の王」で描かれたように、西欧では子どもたちは放置すれば限りなく野生化していく、という考えが共有されていました。しかし、我が国では子どもたちの世界に対する関心が強くなかった気がします。今回のいじめ事件では、明らかに子どもの野生化の片鱗が現れていますが、それに対して日本の社会、学校・地域・家庭がどう考えているのかを心配しています。いじめの加害者を犯罪者のように扱うのは危険です。加害者と被害者という二元論から自由になることが、人として必要ではないかと思

また、「自殺」の問題については、日本の歴史の中に

「ストップ・ザ・無縁社会」 広がれ!全県キャンペーン

<http://stop-muen.jp>

「ストップ・ザ・無縁社会」
全県キャンペーンの最新情報をお伝えします。

寄付について(お礼)

9月14日、全県キャンペーンの趣旨に賛同された株式会社NTTドコモ関西支社より、「ストップ・ザ・無縁社会」全県キャンペーン推進協議会に対して50万円のご寄附をいただきました。当日は、同支社神戸支店長の松谷正輝氏に対して、推進協議会代表幹事の武田政義県社協会会長より感謝盾が贈呈されました。いただいた寄附金は、全県キャンペーンの各種事業の推進に活用させていただく予定です。ここにあらためてお礼を申し上げます。



今回は、8月10日に開催された記念講演会の内容(要旨)をご紹介します。

多く存在する切腹や心中、文学者の自殺の背後にある、「地上にあるもので永遠なもの一つもない」という「無常観」について、教育の場や地域社会で考えていく作業を抜きにしては解決できないと思います。

最後に「人間関係」の問題です。無差別殺人や詐欺事件が広がりを見せる中で、学校や家庭で「他人を信用するな」と教え始めている気がします。正しい倫理観や思想信条を持ち、人を信じるのが最大の価値であることを教えていかなければ、日本社会は崩壊するでしょう。

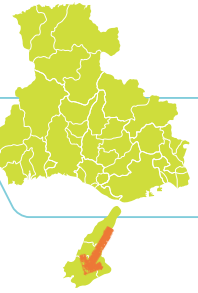
宗教学者
国際日本文化研究センター名誉教授
山折 哲雄さん



このコーナーでは、県内の社協職員など“地域福祉を進める人々”の活動を取り上げながら、ワーカーとしての想いを伝えます。

市町社協の取り組んでいるさまざまな活動を紹介します。

南あわじ市社会福祉協議会 ☎0799-44-3007 南あわじ市社協 検索 ▶



みんなで考え みんなでつくる 笑顔のまち

行政施策との連携で進める地域づくりの展開

南あわじ市社協ではこのたび、第2次地域福祉推進計画(平成24〜28年度)を策定した。今回の計画の最大の特徴は、市の地域福祉計画づくりとの連携。市と社協が合同で住民アンケートや地区懇談会などに取り組み、「行政と共通目標が確認できた」と市社協の山口事務局長は話す。計画では、「住民の力を育む」「誰もが安心して暮らせるしくみづくり」の2つを重点の柱に掲げた。

「防災カフェ」をきっかけにした支え合い活動

計画の1つ目の柱は「住民の力を育む」こと。住民アンケートからは、「隣近所との付き合いは大切」と答える人が多い一方、実際は「あいさつ程度の付き合い」とどまることが多い実態が浮かび上がった。そこで、住民による「二歩進んだ支え合い活動のきっかけ」として、市社協では「防災カフェ」に力を入れることにした。この「防災カフェ」は、



防災カフェで地域のつながりづくり

「カフェにふらっと立ち寄るようにお茶を飲みながら気軽に防災を考えることができる場」として、旧町単位の市内4支部で取り組まれている。市や自主防災組織とも連携し、もしもの時に家庭や地域で取り組む防災を学ぶ。カフェの参加者も、「地域でのつながりづくりを考える機会になっている」と話し、学びを生かした活動が模索されている。

困りごとを確実にキャッチ！ 地域ケアシステムづくり

2つ目の計画の柱は、住民の困

りごとを確実にキャッチし、解決につなげる地域ケアシステムづくりだ。計画策定の際に高齢者や障害者から、「困った時に相談できる場所や安心して出かけられる居場所が少ない」という声が上がったことがきっかけだ。そこで市社協では、困りごとを確実にキャッチし、専門職だけでなく住民とともに困りごとを解決する地域ケアシステム(通称「みくあシステム」)づくりを目指す。「みくあシステム」開始に向けて、まずは今年10月に障害者虐待防止センターを受託。同センターをはじめとする社協の相談窓口や各種事業を通じて、キャッチした困りごとを必要に応じて関係機関とも情報共有することで、本人を中心とした継続した支援が可能なくみづくりを展開する。

南あわじ市社協では、平成24年度から5カ年計画で第2次地域福祉推進計画を策定しました。ちょうど、市の「地域福祉計画」「障害福祉計画(3期)」「老人福祉計画(5期)」が策定・見直しの時期にあったことから、行政職員と合同で作業チームを編成し、アンケートの立案や地区別懇談会の開催、そしてさまざまな調査結果と目標を共有できたことは、とても意義深いものでした。

今後も関係機関との連携を強化し、行政計画との整合を図りながら、「みんなで作る 笑顔のまち」の実現に向けて取り組んでまいります。



南あわじ市社会福祉協議会 会長 谷口 啓一

地域を駆ける！ ワーカー物語

安心して暮らせる地域をつくる！！

あなたの原点は？

入局した頃の、上品なひとり暮らしのおばあさんに給食サービスを届けた時のことです。縁側に座って、小さなカメの背をなでながら「主人か息子さんの名前を呼び、〇〇や、お前はどこにいったんだい」と話しかけている姿を背中越しに見た時、その後の会話ができませんでした。また、認知症や障害のある方が何らかの理由でこの町を去った時、「あの時に何かできたことがあったのではないかと、ワーカーとしての自問自答の日々が始まりました。」

印象に残るエピソードは？

ある時、「最近、あの人の姿を見かけない」という情報が入り、いっきいきサロン参加者を通じて民生委員から入ってきました。ひとり暮らしの



地域の子どもから大人たちを巻き込んで、ふれあいの輪を広げています(絵マップ実行委員会の様子)

男性高齢者の方です。訪問すると、ご本人はこたつから動けないほど衰弱していて、お金もなく、ほとんど何も食べていない状況でした。「何とかしないと」と上郡町地域包括支援センターと連携して、病院の受診、介護保険、給食サービスを手配し、なんとか命を救うことができました。ご本人の「安心して暮らしたい」という想いに応えようと、福祉サービス利用援助事業による支援をはじめ、民生委員や自治会長と一緒に見守りを進めました。一度、ボヤ騒ぎがあり、近隣から不安の声が寄せられました。緊急時の連絡先を伝えるなど「一緒に見守っていたらどうか」という理解を求めました。その後、各種サービスと地域の見守りで限界まで自宅で暮らした

力を入れたい活動は？

各自治会に見合った小地域福祉推進組織の設置と、各分野が緻密な連絡を取り合い、住民のSOSを早めに察知できるように仕組みづくりができればいいなと思っています。

大切にしていることは？

当事者や地域が本来持っている力を高める「エンパワメント」を進めるために、中立的に今自分がどこに立つべきか、どこに向けて取り組むべきかを意識しています。また、「社協



上郡町社会福祉協議会 竹内 盛一郎さん

Personal History

- 27歳 上郡町社協に入局
- 31歳 平成16年台風23号災害による町内外の救援活動 第5次地域福祉推進計画の策定
- 33歳 福祉サービス利用援助事業を初めて担当 3年計画で108つの自治会との懇談会をスタート 第1回福祉の絵マップコンクールスタート(平成24年度で第7回目)

職員「人」として求められる正しい資質を探し続けることです。

取材を終えて

ご本人の生活の場に飛び込み、寄り添う竹内さん。家族や地域の関係性をひもとき、紡ぎなおす支援は多くの葛藤がつきまといまいます。そんな中でも、ご本人が安心して暮らし続けることを大切に考え行動する姿に、専門職や住民から厚い信頼が寄せられています。

平成24年度

「トップマネジメントセミナー」開催
社会的孤立に社協はどう対応するか

8月22日～23日にかけて「トップマネジメントセミナー」を開催、県内市町村協の会長ら37人が出席した。メインテーマは「社会的孤立を防ぐ地域福祉のあり方と社協活動」。孤立死をはじめ各地で問題となっている社会的孤立を地域福祉の観点からどう捉え、対応を図るのかを議論した。

基調講演では、明治学院大学教授の河合克義さんより、数々のデータ・調査結果をもとに、無縁化が高齢者のみならず幅広い世代へ広がっている実態について講演いただいた。

「支え合う地域へ」小地域福祉活動とケアシステムづくり」と題したパネル討議では、朝来市社協の戸田幸男会長と宝塚市社協の稲野廣理事長から、介護職員を含めた職員が多職種でチームを組んで住民活動支援を行っている取り組みが報告された。

セミナーを通して、社協をはじめとする福祉専門職が積極的に



「無縁化」の広がりについて語る河合さん



「ストップ・ザ・無縁社会」全県キャンペーンの展開を協議



演習では、民児協のアクションプランについて多くの意見が交わされた。

平成24年度

兵庫県民生委員・児童委員研修総会
個人情報の取り扱いや今後の重点取り組みを話し合う

9月3～4日、兵庫県民生委員・児童委員研修総会が開催され、約270人が参加した。1日目は「個人情報の適切な取り扱い」をテーマに課題共有を行った。講演では、「個人情報への接点なくして社会福祉の援助は成り立たない」とした上で、個人情報保護の重要性と落とし穴について語られ、本人の同意を得ることや情報の使用目的を明確にすることが大切さを確認し合った。

また、2日間にわたるグループ演習では、それぞれの民児協活動の課題を出し合い、今後重点的に取り組むアクションプランについて検討。ひとり暮らし高齢者への見守りや、認知症の方への接し方、災害時要援護者の支援など、テーマごとに協議を深め、最後はグループごとの成果を共有した。全県の民生委員児童委員が活動を進める上で必要な視点を確認し、情報交換し合う場となった。

社会福祉法人経営計画策定セミナー
が開講される

8月28日、県福祉センターにて「社会福祉法人経営計画策定セミナー」を開講した。

本ゼミナールは、社会福祉法人を取り巻く情勢が激しく変化中、安定した経営活動を展開するためのツールである経営計画の具体的な策定手法を学ぶものである。プログラムは別表参照。

第1回目は、社会保障と税の一体改革などの情勢動向や計画策定の意義を確認した後、兵庫県立大学の菅間克雄教授より、経営計画の概要や策定ま



ビジョンの策定に熱心に取り組む参加者

での流れや手法、さらに策定の第1ステップであるビジョンの設定に関する講義があった。続いて、参加者が自法人の経営理念に基づいたビジョンの設定作業にも取り組んだ。

本ゼミナールは今年で3回目を迎え、その間、経営計画の策定に着手した法人が年々増えている。今後ゼミナールをはじめとした経営計画策定支援事業を通じて、社会福祉法人の経営基盤強化を支援していく。

プログラム	
第1回 (8月)	<ul style="list-style-type: none"> ◆「社会福祉法人における経営計画策定の意義」 ◆「経営理念の確認及びビジョンの設定について」 ◎各法人での課題レポートの作成
第2回 (10月)	<ul style="list-style-type: none"> ◆「法人の現状分析～SWOT分析～」 ◆「経営課題の抽出と経営戦略の策定」 ◎各法人での課題レポートの作成
第3回 (11月)	<ul style="list-style-type: none"> ◆「バランス・スコアカード(BSC)の活用」 ◆「ビジョン達成に向けたストーリーづくり～戦略マップの作成～」 ◎各法人での課題レポートの作成
第4回 (12月)	<ul style="list-style-type: none"> ◆「BSCを活用した経営計画の作成」 ◆「計画策定後の進捗管理について」 ◆講師からの総括



みんなの広場

兵庫県社協の会員からの情報発信コーナーです



地域の安心を、住民の皆さんとともに!

兵庫県地域包括・在宅介護支援センター協議会

地域包括支援センター・在宅介護支援センターは、高齢者等の総合相談窓口として県内に約300カ所あります。本協議会は、兵庫県内のセンターが、「高齢者等が住み慣れた地域で、尊厳あるその人らしい生活を継続することができる仕組み＝地域包括ケアシステム」を構築することを目指し、平成9年11月11日に設立され、全国で2番目に多い会員で組織しています。職員の資質向上のため、各研修の開催や、近畿ブロックや全国研修の情報、国の動向等を発信したり、政策提言活動を行うなど、協議会だからこその取り組みを展開しています。

また、ブロック活動支援助成を強化し、より身近な地域で職員同士が学び、情報交換をする仕組みづくりが進んできました。

*本会入会の手続き、活動や研修内容・お申込みに関するお問い合わせは、下記事務局まで。

連絡先

兵庫県地域包括・在宅介護支援センター協議会事務局(兵庫県社会福祉協議会 地域福祉部)
☎(078) 242-4634 FAX(078) 242-0297

アピールしたい活動の
情報をお寄せください。

お問い合わせ先

兵庫県社協 総務企画部 ☎078-242-4633 FAX 078-242-4153 E-mail info@hyogo-wel.or.jp

こんな取り組みをしています

現任職員研修会

「住民と専門職が連携・協働する地域づくり～助け合いから、安心の地域へ～」

講師・コーディネーター 木原 孝久 氏(住民流福祉総合研究所 所長)
パネラー 県内の地域包括支援センター(在宅介護支援センター)職員
主催 兵庫県地域包括・在宅介護支援センター協議会
日時・場所

神戸会場 10月29日(月) 県福祉センター 1階多目的ホール
姫路会場 10月30日(火) 西播地域地場産業振興センター 9階901室
*両日とも10:30～16:30 同内容
参加費 会員:無料 非会員:5,000円

他の専門職との連携を目指し、今年度は県内社会福祉協議会職員とともに参加できる、支え合いマップづくりをテーマに開催!地域のネットワークづくりをテーマに開催!お誘い合わせの上、ぜひご参加ください。



昨年度の研修テーマは「災害にも強いネットワークづくり」



発災後3日間を乗り切るための資源や方法に知恵を絞る

助成金情報

福祉活動等に対する助成金の情報です。詳細については、それぞれの問合せ先にご確認ください。

ひょうご安全の日推進事業
助成制度(第2期)

「災害文化」の定着に貢献する兵庫県内で実施される事業へ助成します。

対象団体 規約などを有し、事業責任者、会計責任者などを明確にしている団体(NPO、自主防災組織、実行委員会など)

助成額 地域事業上限50万円、全県事業上限100万円

締切り 平成24年10月22日(月)

⑤事業を実施する地域を所管する県民局防災担当課

④ひょうご安全の日推進県民会議事務局
TEL078-362-9984

URL <http://www.19950117hyogo.jp/>

平成25年度年賀寄附金配分

総務大臣の認可を経て、法律で定められた10の分野の事業を行う全国各地の社会福祉施設をはじめ、多くの団体に配分します。

対象団体 【一般枠】「お年玉付き郵便書等に関する法律」に定められた10の事業を行う社会福祉法人、更生保護法人、公益社団法人、公益財団法人、特例社団法人、特例財団法人、特例非営利活動法人などの団体

【特別枠】東日本大震災による被災者の救助またはその予防(復興)を目的とする事業

配分事業分野 【一般枠】活動・一般プログラム、活動・チャレンジプログラム、施設改修、機器購入、車両購入

【特別枠】東日本大震災の被災者救助・予防(復興)

助成金額 1件あたり500万円(上限)

※活動・チャレンジプログラムのみ50万円

締切り 平成24年11月30日(金)消印有効

⑤日本郵便株式会社 総務部

TEL03-3504-4401

URL <http://www.post.japanpost.jp/kifu/>

麒麟福祉財団

平成25年度麒麟・子育て公募助成

地域に根づく小さな福祉活動に助成します。

対象事業 「地域」「子育て」「ボランティア」の3つのキーワードに合致する、地域での子育てに関わるボランティア活動を目的とする民間団体で、4人以上のメンバーが中心となって活動する団体・グループ(活動の年数、法人格の有無は問わない)

助成金額 1件(1団体)上限30万円(総額3,500万円)

締切り 平成24年11月11日(日)消印有効

④公益財団法人 麒麟福祉財団

TEL03-5540-3522

URL <http://www.kirin.co.jp/found>

研修・イベント

第10回生と死を考える市民フォーラム
「住み慣れた街で認知症を楽しむ」

日時 平成24年10月13日(土)14:00~16:00

場所 尼崎市総合文化センター7階

第2会議室

参加費 無料

内容 特別講演「認知症薬の最新事情」(長尾クリニック院長 長尾和宏さん)、かいご漫才など

定員 100人(先着順)

④⑤ケアネット尼崎 TEL06-6412-9012

介護の日シンポジウム

平成20年に制定された「介護の日」にあわせて、「老いを生きることを共に考える」をテーマに、介護の日シンポジウムを開催します。精神科医で『「老い」を生きるということ』の著者・竹中星郎さんと、NHK「ハートネットTV・介護百人一首」等の司会でご活躍の小谷あゆみさんを迎え、これからのケアを共に考えます。

日時 平成24年11月7日(水)13:00~17:00

場所 兵庫県民会館9階 けんみんホール

参加費 無料

定員 300人

締切り 平成24年10月25日(木)

⑤URL <http://www.hyogo-kenroukyo.jp/>

④一般社団法人 兵庫県老人福祉事業協会

TEL078-291-6822

第61回兵庫県社会福祉大会

社会福祉の発展に功績を残された方々への表彰および記念講演を行います。

主催 兵庫県、兵庫県社会福祉協議会、高砂市、高砂市社会福祉協議会

日時 平成24年11月30日(金)

13:00~16:00

会場 高砂市文化会館じょうとんばホール

参加費 無料

内容 表彰式典、谷五郎氏(ラジオ・パーソナリティ)による記念講演「絆つなげる・明日へつながる」

④⑤兵庫県社会福祉協議会総務企画部

TEL078-242-4636

URL <http://www.hyogo-wel.or.jp>

東日本大震災県外避難者の皆さんに
支援情報をお届けします!

東日本大震災県外避難者西日本連絡会(愛称「まるっと西日本」)では、関西に避難されている当事者同士の交流会や支援イベントなど、避難者に役立つ情報を無料で配信しています。

⇒支援情報メールのお申込みは、

maruttonishi@prius-pro.jpへ空メールを送って登録してください。

URL <http://maruttonishi.jimdo.com>

行事予定

- 10月 15日 県社協第174回評議員会◆県福祉センター
- 15・16日 生活保護中堅ケースワーカー研修◆社会福祉研修所
- 24日 社会福祉法人財務管理研修◆県福祉センター
県社協第227回理事会◆県福祉センター
- 25日 福祉の就職説明会 AUTUMN in あまがさき◆尼崎市総合文化センター
- 26日 新任職員OJT担当者研修(Bコース)◆県福祉センター
- 28日 第15回介護支援専門員実務研修受講試験◆神戸大学ほか
県地域包括・在宅介護支援センター協議会 現任職員研修会◆県福祉センター
- 29日 県地域包括・在宅介護支援センター協議会 現任職員研修会◆西播地域地場産業振興センター
- 30日 福祉の就職説明会 AUTUMN in あかし◆明石市立産業交流センター
- 11月 18日 介護支援専門員専門研修課程II・更新研修A(後期)◆県立のじぎく会館ほか
- 10日 介護福祉士受験セミナー公開模擬試験◆社会福祉研修所
- 11日 福祉の就職説明会 AUTUMN in ひめじ◆姫路商工会議所
- 28日 近畿ブロック地域包括・在宅介護支援センター協議会 奈良県セミナー◆ホテル日航奈良
- 30日 老人福祉施設中堅職員研修◆社会福祉研修所
第61回兵庫県社会福祉大会◆高砂市文化会館

兵庫県の地域福祉情報誌

ひょうごの福祉



●人も地域も元気に! 地域の夢とアイデアが詰まった“ご当地福祉”を紹介!します!

●福祉制度を分かりやすく! 福祉のさまざまな情報をお伝えします!

毎月発行・年間購読料 1,500円(送料別)

申し込み・問い合わせ 兵庫県社協 総務企画部 TEL 078-242-4633

現状の制作物を一新したい
新しい情報を伝えたい
そんなとき、ご相談ください。



カタログ、パンフレット、情報誌、広告などの企画・制作

神戸市中央区海岸通8番 神港ビルディング5F
TEL078-331-5255 FAX078-331-7800
<http://www.ideo-kobe.co.jp>

株式会社 イディー

イディー 神戸 検索



IDEE INC.

Advertising, Editorial & Web Design